

当番世話人挨拶



糖尿病治療の進歩には目覚ましいものがあります。新しい経口血糖降下薬とインスリン製剤、インスリンポンプと持続血糖モニターはすでに我が国でも広く使用されるようになってきました。さらに、免疫療法や膵島移植、再生医療により1型糖尿病の治療も遠い夢ではなくなって参りました。最新の糖尿病治療を遅れることなく診療に応用し、現在開発中の治療の試みについての幅広い知識を共有することは糖尿病診療に携わるものにとって重要と考えます。

そこで、今回の第10回先進糖尿病治療研究会では「QOLと良好なコントロールの両立、さらには治癒を目指して」をテーマとし、現行の日常診療の中で最善の治療を行うためにはどうしたら良いのか、さらには、治癒を目指した最新の治療法はどこまで進んでいるのかを特別講演、教育講演、パネルディスカッションなどを通してご講演いただくことに致しました。

特別講演としては、東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター 幹細胞治療分野教授の中内啓光先生に「糖尿病に対する新しい治療:再生医学からのチャレンジ」の演題でご講演を頂きます。また、ランチョンセミナーでは済生会中央病院内科部長の島田 朗先生に「1型糖尿病の免疫療法」についてご講演を頂きます。ともに、1型糖尿病の治療を目指す夢のある内容です。さらに、教育講演としてLoma Linda University Medical CenterのScott Lee先生に最新の持続血糖モニターとインスリンポンプについてお話を頂き、川村智行先生、黒田暁生先生、竹野谷潤子先生にはカーボハイドレートカウンティングの最新情報をパネルディスカッション形式でご紹介頂きます。一般演題も多彩な内容を応募していただききわめて充実した内容となっております。

糖尿病専門医だけでなく、非専門医、コメディカル、そして患者さんも含めて、最新の知見を共有していただき、活発な議論によって、理解を深めて頂けることを祈念しております。

丸山 太郎

埼玉社会保険病院 副院長

第10回日本先進糖尿病治療研究会当番世話人